

## 介護ロボット導入報告書

施設名	いぶき苑 いぶき苑別館 ほのぼのいぶき
施設の種別	介護老人福祉施設
住所地	不破郡垂井町岩手 4538 番地 不破郡垂井町府中 1947 番地 1

## 1 導入したロボットについて

ロボット名称	シルエット見守りセンサー
介護の種類	移乗介護 移動支援 排せつ支援 <input checked="" type="checkbox"/> 見守り 入浴支援
ロボットの写真	

## 2 使用状況

使用状況	
介護ロボットが使用された場面	<p>① 居室でご利用者が設定範囲を超えた動きがあった時、端末のアラームが鳴ったが、寝返りだけであったため、訪室をせずに確認できた。</p> <p>② 居室でご利用者が設定範囲を超えた動きがあった時、端末のアラームが鳴り、訪室することで転倒等の未然防止につながった。</p>

## 3 導入によって得られた効果

得られた効果	<p>① 見守り対象の利用者の様子が常時把握できることで、ケアの必要のない方の居室を定期的に訪問する必要がなく、職員の行動の効率化や肉体的負担の軽減につながった。</p> <p>② 見守りセンサーは、従来のセンサーと異なり居室では音が鳴らないため、利用者にとって音が鳴ることによる不快感を解消できるとともに、職員の訪室が必要時に限定されることで、利用者にとって見張られているといった精神的負担も解消できた。</p> <p>③ 遠隔による見守りの実現で、従前の利用者からの助けを求める行動情報だけでなく、職員のリスク判断による素早いサポートが可能となり、転倒等事故の未然防止につながった。</p>
介護ロボット導入について介護士等の意見	<p>①夜間、職員が居室に入るだけでご利用者が精神的に不安定になることがあるが、シルエットで判断し、入室しなくても良い時があるため、ご利用者の精神的な安定につながっている。</p> <p>②ベッドセンサーやチェアセンサーと比較すると、ご利用者の様子が良くわかりベッドセンサーやチェアセンサーよりも使い勝手が良い。</p> <p>③トイレに行きたくて動こうとして転んでしまうことを繰り返すご利用者がおられた。転倒が続くと、骨折し、その結果、寝たきりなることにもつながります。結果、おむつをつけることにもなってしまうため、センサーを使用することによって転倒の回数が減り、「いつまでも自分でトイレに行きたい」とのご利用者の気持ちをかなえることにもつながっている。</p>

## 4 介護ロボットに関する問い合わせ先

施設名	特別養護老人ホーム いぶき苑別館
電話	0584-22-5701
Email	ibukien@ibukien.jp
担当者氏名	木村 智一